



# 放射能検査情報が 購買行動に与える影響と 風評被害の要因分析

千葉大学教授  
(専門: 農業経済学)

栗原伸一

# 本日お話しする主な内容

- 震災による千葉県農業の被害状況
- 原発事故による千葉・福島県農業の被害状況
- 震災後の**買い溜め**の状況と原因
- 原発事故後の**買い控え**(風評被害)の状況と原因
- 放射能が不検出ならば消費者は安心するのか
- どうすれば風評被害を防げるのか



# 東日本大震災による千葉県農業の被害



液状化した農地（千葉県香取市，農水省HP）



# 東日本大震災による千葉県農業の被害

- 農林水産施設の被害：農地の液状化，園芸ハウスや畜舎の損傷，集落排水などの損傷…

→327億円

- 農林水産物の被害：停電による野菜や花きの低温障害，原乳・枝肉の廃棄，海苔・魚類の損害

→19億円



千葉県農林水産業の被害額：346億円（生産額の約1割）

（2013年5月時点，千葉県集計）

注：2011年の農業生産額は4千億

円

# 第一原発事故の千葉県産物への影響

- **出荷制限**: 原子力災害特別措置法に基づき, 国が県に指示
- **出荷自粛**: 県が農協などに自粛を要請(明確な法的根拠はない) → 松戸市で「ゆず」が指定された(現在, 県産品で制限・自粛となっているのはシイタケなど, ごく一部)
- その他: 直売所の来客数減少, イチゴ狩りや潮干狩りの来客数の減少, 取引や輸出の停止, 放射性物質の検査結果や各種証明書の要求…

注: 放射性物質の基準値は100ベクレル/kg  
(一般食品, 2012年3月まで500ベクレル)



# 買い控えによる千葉県産物価格の下落

東京都中央卸売市場価格（円/kg）

品目	震災直前	震災直後
きゅうり	277円	123円
春菊	348円	194円
トマト	352円	224円
キンメダイ	2,850円	1,485円
カタクチイワシ	51円	16円
牛肉（和牛A4）	1,586円	788円



東電への損害賠償請求額（2014年度末、個人請求を除く）

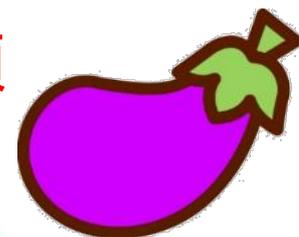
- ・ 農林業関連：149億円
- ・ 漁業関連：81億円

**計230億円（生産額の約6%）**



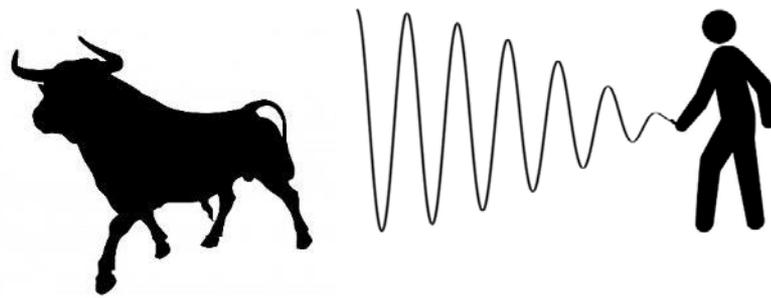
# 福島県産物の風評被害はもっと深刻

- 千葉県産は間もなく価格が戻ったが、福島県産は、現在も低迷している(他県産の2~5割安)
- **2千億円**(今年1月末までの請求額)≒年間生産額



# 風評被害(買い控え)はなぜ発生するのか？

- 風評被害とは: 問題の無い農産物を生産している農家などが経済的な被害を受けること
- 風評被害の発生理由
  - ①メディアの問題: 不適切な報道や噂
  - ②流通の問題: 過剰な反応による仕入れ控えや買い叩き(「ブルウィップ効果」)
  - ③消費者側の問題(→研究対象)

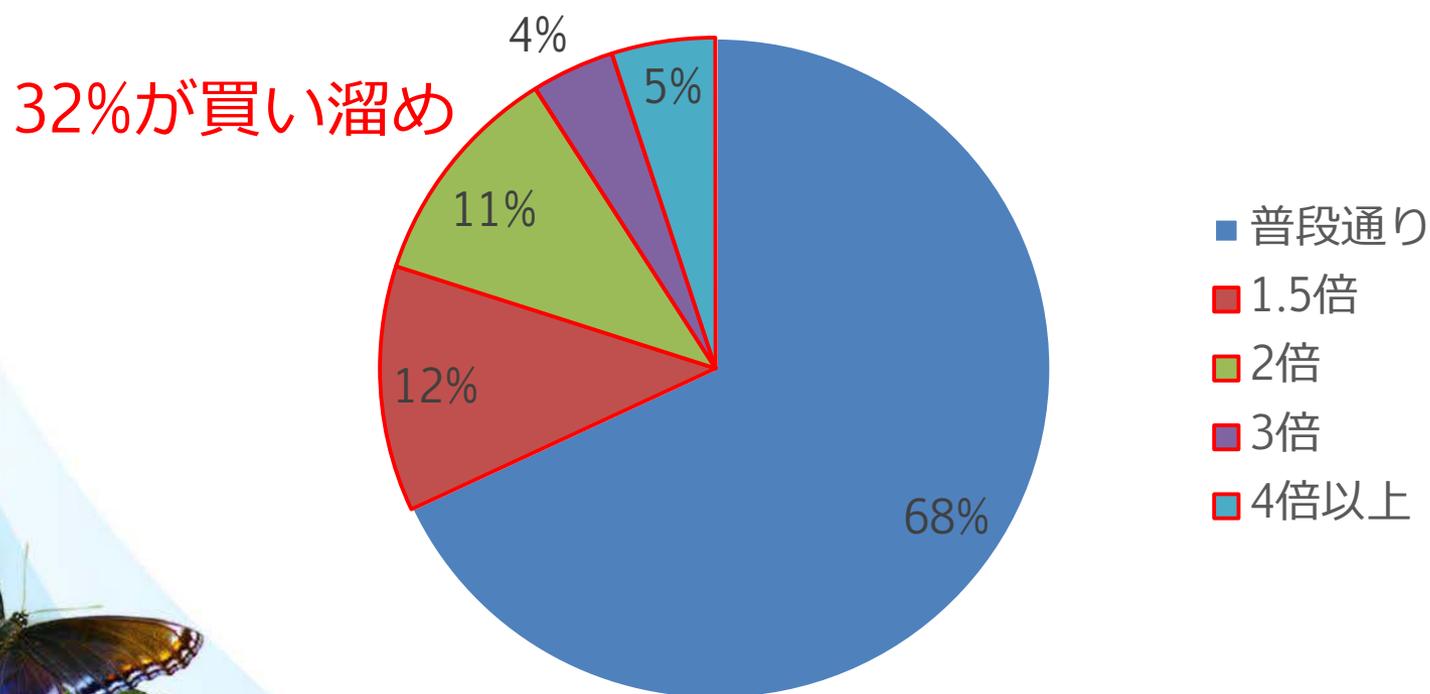


# 買い控えをする消費者は買い溜めもしていた？



# 買い溜めの状況(千葉市民を対象とした調査)

ミネラルウォーターの備蓄量 (普段と比較して)

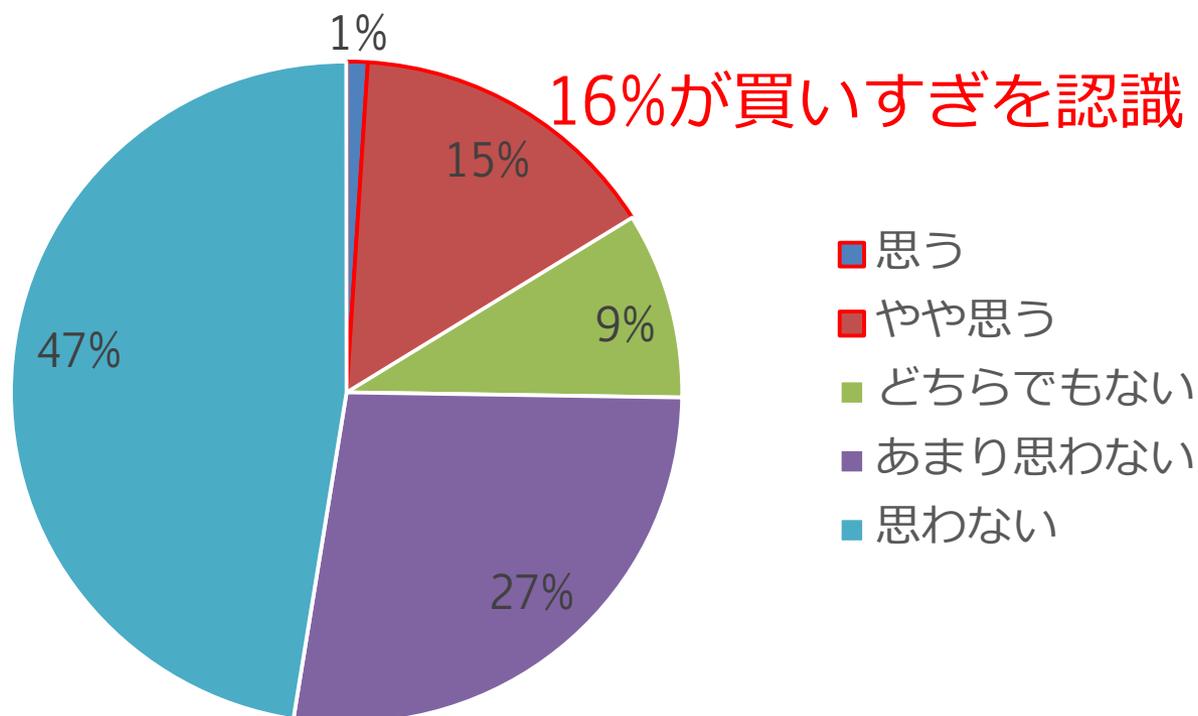


注：2011年4月に350名の成人女性に郵送調査



# 買い溜めの状況(千葉市民を対象とした調査)

買いすぎたと思うか？



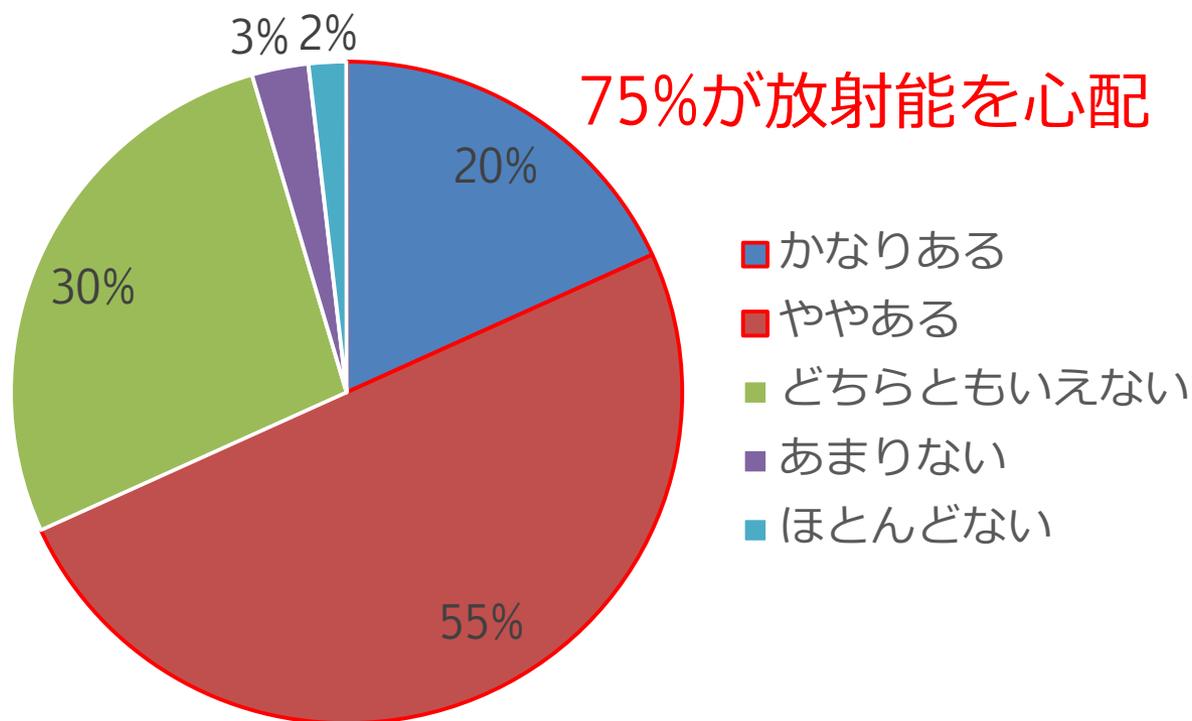
# 買い溜めをした消費者の特徴

- 身近に品不足が発生している消費者(悪循環)
- 普段の防災意識の低い消費者(3分の2は疎か)
- 比較的若い消費者
- 放射能汚染に対する知識が少ない(漠然とした懸念を持つ)消費者
- 計画停電などの非常事態を経験した消費者は買い溜めを肯定する(異常購買の認識無し)



# 買い控えの状況(松戸市民を対象とした調査)

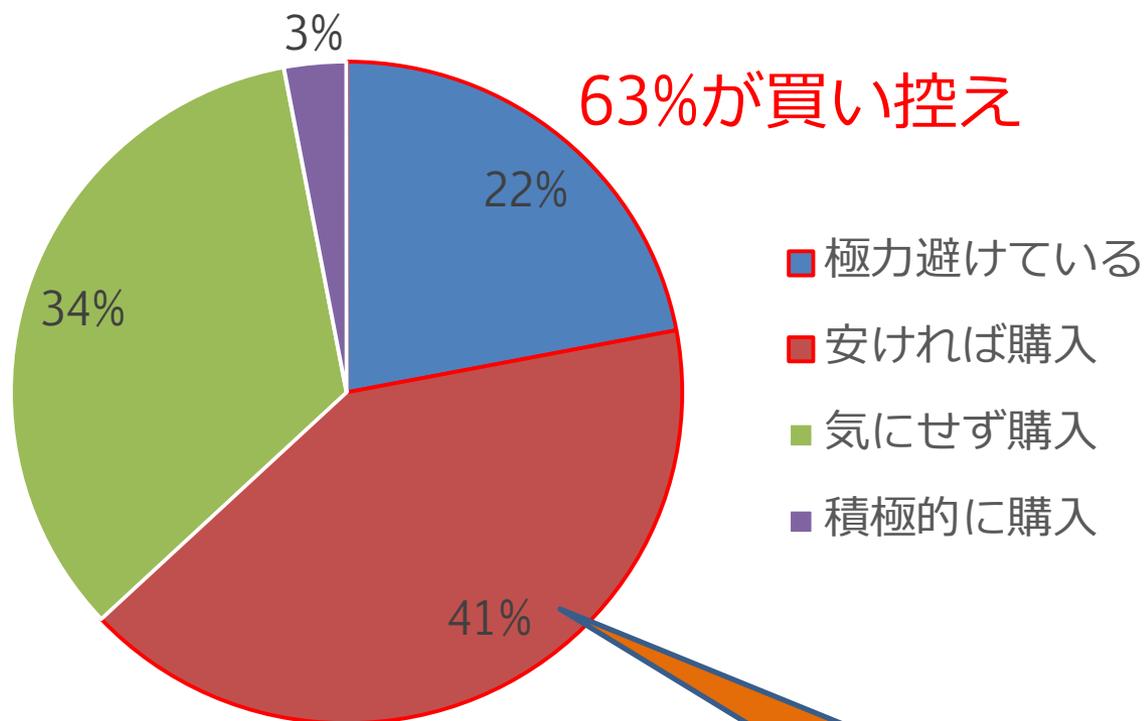
## 食品放射能汚染への懸念



注：2013年8月に64名の専業主婦に調査

# 買い控えの状況（松戸市民を対象とした調査）

福島県産農産物の購入（風評被害）状況



平均で2.4割引  
なら購入



# 買い控える消費者の特徴

- 買い溜めをした消費者像とほぼ一致

身近に品不足が発生

普段の防災意識が低い

若年層

放射能汚染に対する知識が少ない

- 買い物時間が短い消費者
- 子供が多い消費者
- 外食が少ない消費者
- 主に食品スーパーで購入する消費者



# 食品中の放射性物質に関する検査の現状

(2014年3月改訂)

- 対象品目: 基準値を超えるセシウムが検出された米やキノコ(野菜や果実などは基準値の1/2), 5県(岩・宮・福・栃・群)の乳や牛肉
- 対象地域: 基準値(野菜や果実などは1/2)を超えるセシウムを含む品目が確認された自治体
- 市町村ごとに3検体を週1回程度



消費者はより細かい  
検査を望んでいる  
(アンケート調査より)

放射性セシウムの新基準値  
(2012年4月から)

食品群	基準値 (Bq/kg)
飲料水	10
牛乳	50
一般食品	100
乳児用食品	50



# 風評被害を防ぐ方策を考える(松戸市主婦)

- 園芸学部キャンパス内に模擬店舗を設置
- 農家参加型検査情報が購買につながるかを検証



## 放射性物質検査結果

(この野菜と同日、同畑で収穫したサンプルを  
生産者が自分で出荷前に計測しました)

検査品目: ジャガイモ(男爵)

Cs(セシウム)-134: 検出せず (<25Bq/kg)

Cs(セシウム)-137: 検出せず (<25Bq/kg)

Cs(セシウム)合計: 検出せず (<25Bq/kg)

【検査結果は基準値(100Bq)以下でした】

生産: 福島県川俣町  
(生産者名: 齋藤克弘)  
収穫日: 8月7日  
計測日: 8月8日  
計測器: NaIシンチレータ



# 検査情報を提供した結果

- 検査情報が無い場合：平均購入数は3.4品
- 検査情報を提供した場合：4.8品



検査情報を提供することで

**購買数が41%UP！**



# 検査情報効果の地域性

検査情報があれば「現在よりも購入する」と回答した比率

福島に近いほど高い評価



注：2012年11月東京70名，  
'13年3月福島74名，同じく  
大阪91名にアンケート調査



# 情報効果に地域差のある理由 ヒント1

食品放射能汚染を  
心配している消費者比率

福島に近い人ほど  
心配している



# 情報効果に地域差のある理由 ヒント2

福島県産を避けている者の比率

福島から離れて住む  
人ほど買い控える



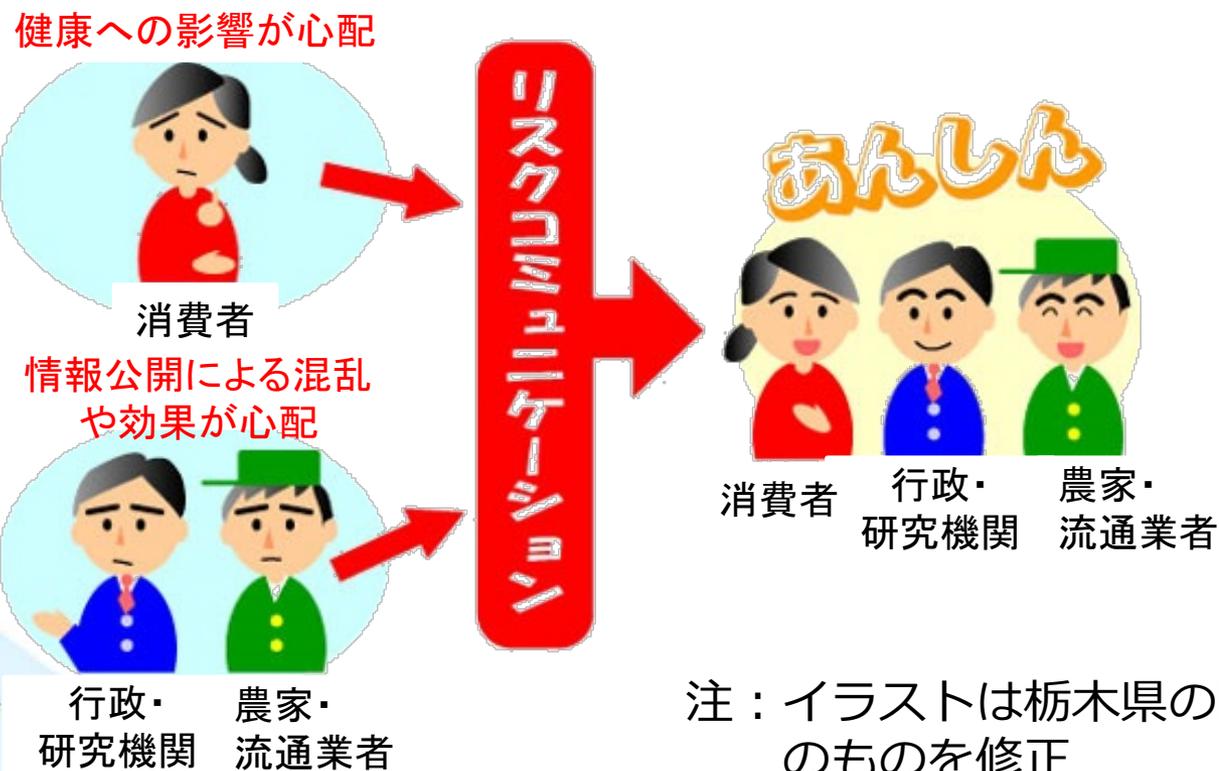
# 情報効果に地域差のある理由（結論）

- 被災地から離れた地域に住んでいる消費者は、原発事故が**身近に感じられない**
  - 放射能汚染への興味が薄く、**知識が不足する**
  - 漠然とした不安**でやみくもに福島県産というだけで購入を控える
  - いくら正確な検査情報を与えても購買行動にはつながらない



# リスクコミュニケーションの必要性

- 関係する人々の間で、食品リスクに関する情報や意見を相互に交換し、正確な情報を共有



# まとめ ～風評被害を防ぐには～

- 農家・流通業者：農家参加型の詳細な検査情報公開システムを福島県に近い市場から導入
- 行政・研究機関：リスクコミュニケーションを通して、消費者と農家・流通業者との信頼関係を強化
- 消費者：正しい知識を身につけ、関連情報を積極的に利用する姿勢





ご清聴ありがとうございました

「今後のみなさんの購買行動が  
福島復興の一助となりますように」